

令和6年度 教育課程特例校実施状況（自己評価・学校関係者評価）

1. 教育課程特別校としての取り組み

本校では、多様性を重視し様々な履歴を持った生徒たちを受け入れ、彼らの能力や適性を更に伸ばす教育環境を提供している。多くの帰国生、外国籍生徒、二重国籍生徒などが在籍し数学・理科・社会の3教科を英語でのイメージョン教育を行うことで総合的な英語力の進捗を図り、共に協力して、学び合う多様な教育を実践している。

2. 学校評価（自己評価並びに学校関係者評価）

		自己評価	学校関係者評価	
	評価	現状・課題・反省	総合評価	意見・要望
指導体制	A	本校には、16名の外国人教員が勤務している。日本人教員と同様にHRクラス担任や授業教科指導などお互いに連携をしながら生徒指導・保護者会・授業カリキュラム・指導案・試験などの作成を行っている。定期的な教員研修と自己研鑽の推奨、授業観察の導入により学校全体の教育力の向上に努めている。	A	「指導体制」 インタークラスにおいては、外国人教師、日本人教師のダブル担任制のため、HRをはじめ様々な状況においてきめ細やかな指導が受けられるため、帰国生や国内インター出身の生徒でもスムーズに日本の学校の環境に慣れ、SG(Standard Group)生とも良い関係を築くことが出来ている。保護者としては、個人面談時に外国人教師、日本人教師双方から子どもの日常を伺うことが出来るため、新たに気づかされることもあり非常に有難く思う。
授業内容	A	PBLを中心として授業カリキュラム・指導案・試験を作成している。授業を始める前にトリガークエッション（問い）を与え、学習の関心度を高めて自ら学ぶ姿勢を重視している。授業は、C:創造的思考の問いを生徒に与え、各自が持つ知識から個人とグループでの討論とプレゼンテーションから授業を開始し、生徒の学習への関心度を高める工夫をしている。学期ごとの評価は、PBLの成果をもとにA:知性・知識、B:応用・発展、C:創造的思考のルーブリックで行われている。		「授業内容」 PBL型授業を主体とした授業カリキュラムになっており、生徒自らが問題を見つけ、解決する能力を身につける内容になっている。スタートした当初は慣れず、戸惑いもあった様だが慣れていくうちにディスカッション、プレゼンテーションスキルの向上、論理的思考力が身に付き、社会の様々な問題に興味を持ち日常生活においても常にアンテナを張り、考える能力が身に付いてきたと思われる。
生徒への対応	A	HRでは、IC staffと日本人教員のダブル担任制を実施しており、英語と日本語での担任業務での連携を実施している。生徒だけでなく、保護者への対応も英語話者には、対応できるようになっている。授業では、PBLを中心に実施して生徒の学習意欲の向上を高める工夫を構築している。		一例を上げると、駅前である国の人たちが募金活動をしているのを目にしたとき、すぐにスマホでその国で現在何か起きているのか、どんな問題があるのかを
情報提供	A	学校HPや配布のパンフレット、学校説明会などにおいて本校の実践しているイメージョン教育を説明している。シラバスなども学校HPに公開し、4月の段階で1年間の学習計		

		画を可視化している。また、各学期には Reflection Sheet を記入して生徒それぞれの振り返りに機会としている。	
効果	B	朝学習 (IXL アメリカの e-learning) や PBL 授業、定期試験や課題などを評価指標に加え、外部試験の TOEFL や IXL の試験などを活用して学力の進捗を測っている。英語力の向上に加えて、思考力 (ロジカル・シンキング、クリティカル・シンキング、クリエイティブ・シンキング) やコミュニケーション能力などの向上に努めている。 次年度は、実力試験としてアメリカの MAP 「Measure of Academic Progress」という試験を導入する予定である。この実施により英語で学習している生徒との学力の分析をすることができるようになる。	調べ納得した上で募金をし、更に自らの考えを話した後に PBL で取り上げてみようかなと発言したのを聞いて、思考力の伸びと世界で活躍できる力が確実に付いてきていることを実感した。 短期間でそのままで効果があるのは、先生方の準備や指導のお陰であり大変感謝している。 「生徒への対応」 授業内容で分からない点があった際は、外国人教師、日本人教師ともに休み時間や放課後に時間を取って、丁寧に考えてくれるのはとても有難い。 今年度から新しいプログラム WACE がスタートするがこれに関しても時間を設け、生徒・保護者向けの説明会を開催し1つ1つの質問にも丁寧に回答して頂けたので疑問、不安も解消された。実際開始してみないとどれだけ困難なプログラムか分からないが、もし壁にぶつかったとしても一人ひとりの生徒に真摯に向かってくれる先生方が多いので解決できると信じている。
その他	A	中学の総合の時間 (本校では iTime と称している) の充実を図るために iTime コーディネーターを配属して3年間のカリキュラムの更なる向上に務める。高校では、International Course Advanced Group において西オーストラリア州の教育プログラム (WACE: West Australia Certificate of Education) が実施される。その準備として WACE コーディネーター、大学進学アドバイザーを配属する。	

評価点

A:評価できる B: やや評価できる C: やや評価できない D: 評価できない